



令和4年度 第3号
[通巻 133号]
耶麻地区小学校長会
令和5年2月14日



巻頭言

「働き方改革と教職の誇り」

耶麻地区小学校長会副会長 塩川小学校長 樋口 喜敬

いつからでしょうか。教員が人気のない職業となってしまったのは。

長時間労働、保護者の無理な要望やクレームへの対応、なかなか言うことを聞いてくれない子どもへの指導の難しさ。などとブラックな面がマスコミに取り上げられ、それまでみんなが思っているもなかなか言えずにいた思いを若い先生方がSNSにより発信したことで、より鮮明に教職のブラック化がとりざたされ、働き方改革なども言われるようになりました。そして、教員を目指す若い人が減り、特に小学校は教員が足りないような実態です。

私も長く小学校の教員を務め、今年で37年目となります。確かに大変なときもありました。20代の頃は、休みは日曜日しかなく、おまけに土曜日の午後は、陸上や水泳指導、せっかくの日曜日は、スポ少の練習試合や大会の指導などで全くの休みなしの時もありました。30代の頃は、土曜日も休みとなりましたが、毎日遅くまで学校で仕事を続け、家に持ち帰る仕事もたくさんありました。持ち帰ってもまた次の日には荷物を持って学校へと出勤する日々。なぜ次から次へとやることが多いのだろうと思いました。40代からは、教務主任や管理職となり、持ち帰り仕事は減りましたが、学校に残って行う時間や土日に学校へ行くことが増えました。

振り返ってみると確かに忙しい日々を送ってきたなと思います。しかし、その全てが悪いものではなかったです。教師としてのやりがいや子ども達との楽しい思い出、喜んでくれた保護者がいました。

小学校の場合、部活動の指導と週当たりの授業時数の多さを改善できたら大分ブラックと言

われる仕事も改善されていくのではないのでしょうか。

学校として残さなくてはいけないこと、子ども達に指導していかねばならないことを教育課程編成でしっかりと話し合い、何を頑張らせるのかを考えなければいけないと思います。

(アグネス・チャンさんの記事より)

～「教職」は尊い仕事です。先生という仕事は大変ですが、とても尊い仕事だと思っています。朝も早いですし、何十人という子どもたちの命とその未来を預かっているわけですから。授業やテストなどの準備や採点、保護者への対応でとても忙しい先生方の奮闘している姿を見ると、親としてはとても有り難く思っています。先生方は、自分で選んだ職業という意識があるかもしれませんが、私は先生になる人は神様が選んだのだと思っています。ですから医者や学校の先生は、尊敬に値しますし、教職という職業に誇りを持ってほしいと思います。

～ 日本教育(月刊誌)1月号

この記事を読んで教員としての誇りを忘れていた自分がありました。教員の仕事の素晴らしさを発信していかねばと痛感しました。それは、後輩の教員のために、そして、学校や子どもを守り育てることにもつながっていくと思います。教職は、とても尊い仕事です。未来を担う子ども達を指導していくこと、それは未来を作っていることと同じです。再度、教員としての誇りを持たなくてはと思いました。

まず、私が明るく、楽しく学校に通い、そして明るい未来を信じて先生方にもう一度「教職」としての仕事の価値・誇りを伝えたいと思います。

～退職校長より～

「将来の夢」

長く中学校の教員として勤めてきました。学習指導や進路指導の中で、常に生徒たちに熱く語ってきた言葉の一つが「将来の夢を持つこと」でした。将来の夢を持つことが、毎日の生活や学習、進路の選択や生き方につながるのだと。そして高校入試に向けた面接練習では、「将来の夢は何ですか?」「その夢の実現のためにどんな努力をしていますか?」と問いかけ、曖昧な答えの生徒を叱咤激励してきました。心の中では、「中学生で将来を決めるなんて、大変な時代だなあ。」と思いつつも、実に偉そうに語ってきたものです。

ある時、一人の生徒が、「先生の将来の夢は何ですか?」と聞いてきました。「え!?それをおとなに聞く?」真面目に勉強すればどうにかなる時代に生まれ、多少の紆余曲折はありながらも無事に社会人になってしまった自分は、将来の夢など考えることもなく過ごしてきました。しかし、生徒の手前「将来の夢はありません。」とは言えず、「先生の将来の夢は、絵描きになることです。先生を辞めたら絵描きになるのが夢です!」と見栄を張ってしまったのです。その瞬間、私の退職後の将来の夢が決まってしまいました。

しかし、私の最大のコンプレックスは、美術教員でありながら自分の制作をしていないということでした。仕事や家庭の忙しさを理由に制作から遠退き、コンプレックスから逃れるために、また忙しく仕事をする…。そんな教員生活だったようにも思います。

そしていよいよ退職の時を迎えてしまいました。制作ができる場所を確保しようと、はじめの2ヶ月だけは家の片づけ(断捨離)をやることを心に決めて、新生活のスタートです。異動の度に家に持ち帰り、増え続けていった段ボール箱の整理は、それぞれの学校を懐かしく思い出しながらの作業となり遅々として進まず…。2ヶ月はあっという間に過ぎていきました。

6月、何とか制作の場は確保でき、将来の夢

前喜多方市立豊川小学校長 遠藤 信恵
に向かってスタートしました。まずはリハビリのためにと、数年前に途中で挫折してしまった通信教育「植物画講座」のテキストを引っ張り出し、解説を読みながらの演習です。いざ始めてみると、長すぎるブランクと年齢のためか思うように手が動かず、自分がかかりすぎる毎日。上手くいかないために根気も続かず、嫌になることもしばしば。それでも少しずつ上達していく喜びや完成した喜びを味わいながら、「リハビリ、リハビリ」と自分に言い聞かせながら紙に向かっていきます。

まだまだ私の職業は「主婦」ですが、いつか自分が納得のいく作品が描けるようになり、「絵を描いています。」なんて言える日が来たら嬉しいなあと思っています。生徒への言葉が嘘にならないためにも。

最後になりましたが…

耶麻地区小学校長会の皆様には、大変お世話になりました。いつも温かい言葉かけや親身なご指導をいただき、最後の2年間を耶麻地区で過ごせたことをとても幸せに思っています。

また、令和3年度は、小教研耶麻地区会の会長を務めさせていただきました。皆様のご理解とご協力、ご指導のおかげで、コロナ禍での活動を進めることができましたこと、改めて感謝申し上げます。

終わりの見えな
いコロナ禍での教育活動が続きますが、どうぞ心身のご健康に留意されお過ごしください。

耶麻地区小学校長会のご発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「ネコヤナギ」

転出校長より

校章に託された思い

前西会津小学校長

高田小学校長 博多 弘泰

通勤時間が約40分の西会津小学校から、約10分の高田小学校に勤務し、早1年になろうとしています。

4月1日に着任した時、まず最初に気になったことは、高田小学校の校章(その学校を象徴するためにデザインされた紋章)の由来です。どんな思いや願いが託されているか調べたいと思いました。学校沿革誌や校長室内の書類等で調べましたが、由来に関する内容はありませんでした。

次に、本校卒業の教職員に聞きましたが、分かりませんでした。そこで、PTA役員会での席上、「子どもたちに、校章の由来を伝えたいのでどなたか知っている人はいらっしゃいますか」と話をしました。

その後、PTA会長さんをはじめ役員の方が動いてくださり、昔のPTA手帳に由来が掲載されていることが分かりました。

校章には、秀峰明神嶽を中心に、清流宮川・谷の溪流・桜花らんまんが配置されおり、また、たくさんの思い(「希望・実力」「前進・清潔」「協力・友情」「気品・明朗」)が託されていることが分かりました。その思いを忘れず、開校150年目の歴史に新たな1ページを刻むために、新たな一步を踏み出していかなければならないと思います。子どもたちには、全校朝の会で校章の由来についての話をしました。子どもたちにとって、由来を知ることによって学校への思いを深めるきっかけになり、学校の過去を知ることによって今を知ることによって繋がるという思いをもっています。

次年度本校は、創立150周年を迎えます。校章に託された思いや願いが叶えられるような学校運営をして

いくためにも、日々研鑽を積んでいきたいと考えます。



学校経営あれこれ

「思案する」

加納小学校長 伊達明美

あれこれあった令和4年度でした。とかく私は、あれも・これもとやりたいことが多く、執筆させていただくにおいても、様々思い浮かんでまいります。

学校経営者としては、いかに私のビジョンを先生方や児童、保護者、地域と共有するか、いかに自分達が主体の取組とするか、あれこれの背景には思案がありました。組織として取り組むために、と考えてきました。

○教科担任制の導入：2年生以上に導入しました。児童は複数の先生に関わり、会話が増えました。教員は、充分に教材研究を行う時間ができ、自信をもって授業に臨みました。教職員全員で児童全員を指導・支援する雰囲気になりました。

○学校運営協議会の活動充実：放課後学習室『岩子塾』により、児童は、学習の楽しさが分かってきました。子どもが主体的に学ぶ姿は、教員にとっても地域にとっても喜びです。何とか勉強させたいと大人は苦慮してきましたが、岩子塾で他校の児童や地域の方と学習することを通して、子ども自身が学習への意識を変化させました。

『人は、自分にとってもメリットがなければ動かない』学校経営マネジメントに関する印象深いことばです。子どもを第一に考えるのはもちろんですが、教職員にとってもよさがないことは真によいとは言えず、持続もしないのだろうと思います。子どもにとってよい教育活動だ、の次に、先生方にとってはどうだろう、または、先生方にもよいところを設けられないか、と考えます。保護者にとっては、地域にとっては一。そうして取り組んだあれこれですが、「来年も続けましょう」という教職員からの評価に、率直によかったと思います。地域の方からの「頑張らしましょう」の声は励みになります。児童の明るさや学習意欲の向上には、手応えが強まります。

令和5年度のあれこれに思案をつなげます。

市町村・地区だより

話の小窓

その日に向かって

堂島小学校長 橋本 淳

校長としての最初の1年が、間もなく終わろうとしています。素直な子ども、温かい先生方、協力的な保護者や地域の方々に恵まれた環境に、感謝感謝の毎日です。

校長という立場になり、ふと初任校での勤務時を思い出すことが多くなりました。館岩村立上郷小学校が私の教員生活のスタートです。自分の事だけで精一杯だった時代、初めて仕えた渡部芳加校長先生の存在の大きさは、今でも鮮明に覚えています。「なんだ今日の授業は！0点だ！」など、厳しく指導された日の18:30頃には学校に電話がかかってきて、「何だ、まだ仕事してたのか。帰り俺の家に寄って、うどん食ってけ。」など、どれだけお世話になったことか。退職される年の送別会は、私、大号泣でした。

校長となった今、果たしてそのような姿を職員に少しでも示せているのだろうかと考えこともありますが、当然、まだまだ道の途中です。これから校長としての資質を高め、人材育成を図りながら学校運営をしていかなければなりません。マネジメント力やリーダー性など校長として必要な力は多くありますが、私が最も大切にしていきたいのは人間性を磨き続けることです。「いいか橋本先生、教育は人なりだ。」と、渡部校長先生がよく話されていたことも大きく影響しています。しっかり教職員とコミュニケーションを図りながら、寄り添い、厳しさと優しさを併せ持つハイブリッドな存在・信頼される校長像を目指しながら、日々邁進しているところです。

現段階では、渡部校長先生と比較することすら失礼かもしれません。いつか自分の成りたい校長像に近づいているなど少しでも実感できたら、改めて振り返ってみたいと思います。「私は渡部校長先生のようになれているだろうか」と。その日を迎えられるように、校長として研鑽を積んで参りたいと思います。

「2位じゃダメなんですか？」

喜多方市立松山小学校長 岩淵 邦雄

世界一を目指し1200億円もの国家予算を使うスパコン京の仕分け会議で、参院議員の蓮舫さんが発した13年前の名台詞を覚えている人は多いだろう。「なぜ1位なのか」の問いに官僚は、「世界一になることで国民に夢を」、「世界一の研究には世界一の装置が必要」と応えるが、説得力に欠け計画は凍結。だが、文科省に抗議が殺到し、政府は撤回する。京は11年に計算速度世界1位を達成するが、後にスパコン富岳の開発に関わる研究者の松岡聡さんは、この問いと対峙する。松岡さんは、「世界一の速度が出せる自動車は、世界一の車なのか。重要なのは使い勝手。速度よりむしろ多様な研究の役に立つかが本来だ。」と導く。そこで、スパコンを使う研究者200名に5年かけて聞き取りを行い富岳を開発した。20年に富岳は計算速度世界1位、他でも1位となり4冠に輝いた。でも、それ以上に松岡さんが満足したのが、富岳で作成した新型コロナの飛散シミュレーションだ。これは、京でも10年はかかる。高い汎用性と計算速度、そこから生まれる社会への貢献が、蓮舫さんの問いに対する答えだと松岡さんは言う。(2022.11.14読売新聞「スパコン富岳の世界一に隠された秘話」より要約)

私が「2番じゃダメなんですか？」と問われたら、「1番を目指さなきゃダメだろう」と即座に答えていただろう。順位や点数だけに目が行くと、本来の目的を見失ってしまう。学力調査に向けて膨大な問題を子どもに与え、速さと正確さ、点を取るスキルを求め過ぎていないか。それでは、学びが一方的に強いるものと捉えられ、能動的で主体的な営みから遠ざかってしまうだろう。学びには強制する面もあるが、新しいことを見出す喜びや、学んだことを生活や社会に生かす楽しさが本来である。この記事を読んでハッとさせられた。

教師が学校で教える営みは、研究者が世界一のスパコン富岳を作り上げたような地道で困難な作業だろう。だが、子ども達と日々接し、成長を目の当たりにできる私達だからこそ、難題にも果敢に挑戦し、心から実現させたいと願う。校長には、すべての教職員が真摯に子どもと向き合い、真の学びを追求し続ける経営が求められている。

専門部経過・反省等

【研究部報告】

研究部長

喜多方市立山都小校長 安部 孝

本年度は、県の研究主題をふまえ、3班編成による組織的・計画的な実践研究を軸として、2か年研究の1年次を進めました。各校とも、校長として「誰に対して」「どのような関わり」をしたのかを明確に意識しながら、研究を推進することで、共同研究としての充実を図ることができました。

来年度には、会津大会での発表(第3班)がありますので、引き続き会員全員で研究内容を検討する機会を設け、研究の深化を図っていきたいと思います。次年度もご協力の程、よろしくお願いいたします。

○ 各研究班の成果(一部抜粋)

第1班「学校安全」

校長の役割の明確化として、他機関との連携を図る際に、事前に現状を伝えるなど行事の円滑な運営に資したり、保護者と児童が災害時の安全面について話をしているかを確認したりする。また、児童の主体性育成のための方策として、児童一人一人が、体験活動等を通して防災・安全学習の必然性を意識できるように、効果的な体験活動等を洗い出し、実践する。

第2班「社会との連携・協働」

学校経営・運営ビジョンを学校運営協議会委員に理解してもらった上で、目指す児童像について共通理解することができた。また、校長として情報提供などの適切な支援を行ったことで、地域の将来にも目を向けた「地域と共に目指す子ども像」を立案することができた。

第3班「研究・研修」

各種調査や学校評価等から自校の現状を分析したり、CS等を通して地域の願いを集約したりすることで、課題が明確になった。また、教職員をビジョンの「知・徳・体」3つのグループに分け、定期的に点検の上、成果や課題を共有し、日々の教育実践につなげるサイクルを確立することでビジョン策定に対する教職員の参画意識を高めることができた。

専門部経過・反省等

【行財政部報告】

行財政部長

北塩原村立さくら小学校長 武藤 隆浩

今年度も会員の皆様のご協力により教育行財政に係る各種調査を進めることができました。心より御礼申し上げます。

【調査Ⅰ】教職員配置等に関する調査結果

児童数は、2396名(昨年度比66名減)、実学級数は、153学級(同比2学級減)です。加配・補正教職員数は、本務者10名、講師7名で、児童生徒支援0(2減)、通級指導1(1増)、長研0(1減)、複式補正3(増減0)、初任研2(増減0)、支援学級軽減1(増減0)、復興推進1(3減)、専科指導4(4増)、30人30程度学級5(1減)、キラリ0(2減)となっています。新たな県教委の施策により、専科指導加配が配置されています。

【調査Ⅲ】教育施策の実施状況調査結果

通常学級で特別な支援を必要としている児童が、域内で115名の5.0%、県平均6.2%より1.2ポイント低いですが、全県的に見ると増加傾向となっています。また、支援員の配置は、希望数27名中、配置数23名となっており、人的環境の整備を継続して要望する必要があります。特別支援学級については、在籍児童数は92名(3増)で、情緒・知的共に13学級の新設希望に対し、新設が知的学級2(1増)のみでした。教育の情報化は、ICT専門員の必要数21名に対し、2名配置です。国の方針でICT活用頻度が高まる中、全校で教員のICT活用指導力向上といった課題解決が急務となっています。

【特別調査】大震災・原発事故の影響に係る調査

校舎等の耐震面では、各校とも、耐震診断又は耐震工事を実施済みですが、県内では耐震環境の未整備校もあります。

防災教育では、災害からの身の守り方や地域で想定される災害について理解させる指導が域内・全県で増えています。放射線教育では、教育推進上の課題として、指導者のスキル不足が深刻で、震災の風化を防ぐと共に、放射線の正しい理解を身につける指導の工夫が求められています。

専門部経過・反省等

弁護士から見た学校のいじめ対策

生徒指導部長

喜多方市立上三宮小学校長 大槻 隆志

11月に行われた県小・中学校長会生徒指導部会での講演「いじめ防止対策推進法と学校の対応」において、講師の先生がお話になったことをいくつか紹介します。既に意識されていることが多いかと思いますが、ぜひ参考にしてください。

◆いじめを放置してしまったら、それは学校の責任である。いじめは被害を受けた側がどう感じているかが問題。どんな内容であれ、受けた側が嫌だと感じたらいじめである。

◆定期的なアンケートは必要である。回答しやすいように工夫し、日頃の生活からも、子どもの様子の変化、何かが違うと感じる違和感など、サインを見逃さないようにすることが大切。

◆記録には、日付と根拠が大切。誰が言った、なぜわかったなどをしっかりと記録しておく。

◆保護者にもモラル教育は必要。いじめの原因に、ゲームへの過熱や依存が関わっている場合、保護者も同様の状況になっていることが多い。

◆傍観者への働きかけが重要。自分の問題としてとらえさせ、小さな問題でも全体で取り上げたり、学級で話し合ったりすることが大切。直接止められなくてもできることはある。それは良くないことだという雰囲気の日頃から作り、いじめる側がやりづらくなるようにすることが大切。

◆いじめの報告があった場合、よく見つけてくれた、よく報告し対応してくれたと評価をすべき。加害者の特定が最良ではないこともあるため、被害者の気持ちを一番に考えて対応する。

◆初動対応のミスが無いよう気をつける。学校にはミスがないという対応は反感を買い、トラブルになりやすい。学校で起きた問題については、どんな状況でも教育的な謝罪は必要。被害者の気持ちに寄り添って、状況をしっかりと確認する。情報発信についても、被害者の心情を一番に考える。

◆弁護士と学校が考えているゴールは同じ。弁護士が入ってくれた方が話をしやすくなると思った方が良い。

編集後記

原稿をお寄せ頂いた校長先生方、お忙しい中、本当にありがとうございました。おかげさまで、令和4年度の最終号となる第133号を発行することができました。

ちょうど一年前の2月にも、年度の最終号となる会報を発行し、同様に編集後記を記しておりました。去年は雪深く、福寿草の画像を使用しながらも、裏磐梯の冬は深く春の気配さえも感じることはできない・・・と、ややあきらめの心境で校庭のうずたかい雪山を眺めておりました。それに対して今年は、日によっては眩しいほどの太陽に照らされることがあり、屋根の雪は落ち、校庭の雪山も小規模になり、ひよっとすると福寿草の活動が始まったのではないかと勘違いしてしまうような気候です。裏磐梯で生活をしていると、自然の中で人間は生きていることを痛感させられます。

会報「耶麻」の3回で、耶麻地区の小学校長先生方全員から寄稿をしていただきました。本当にありがとうございました。今後も耶麻地区小学校長会の益々の充実を心より祈念申し上げます。

広報部長 裏磐梯小学校長 佐藤睦弘